

スクミリンゴガイ情報第1号（水稻）

令和5年4月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

活動開始が早くなる可能性があります！

1 スクミリンゴガイについて

本種は、ほ場や水路で越冬し、水温15℃以上で活動を開始します。特に柔らかい植物を好み、田植え後約3週間までの稚苗を食害します。水中で摂食活動を行い、水面上の茎葉も引き込んで摂食するため、食害に遭った部分は欠株となります。多発生の場合、ほとんどの株が食害されることもあります。

2 今後の発生予測

前年7月下旬の巡回調査において、スクミリンゴガイの発生ほ場率は、やや低い状況でした（前年22.8%、平年28.3%、前々年33.5%）。

冬期の気温が高いほど、スクミリンゴガイの越冬量は多くなります。令和4年12月から令和5年2月までの日平均気温は6.10℃（平年5.99℃、前年5.30℃）と平年並でした（過去10年間と比較して5番目に高い）。そのため、例年被害がみられるほ場では、例年同様に発生状況に注意が必要です。

また、本年3月の日平均気温は平年に比べて高い状況でした。さらに、3月30日名古屋地方气象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されています。これらの状況から、スクミリンゴガイの活動開始が例年より早まることが考えられるため、早い作型の地域では発生及び被害の状況に特に注意が必要です。

3 防除対策

スクミリンゴガイの発生が確認されているほ場では、下表を参考に薬剤散布を行います。本種は田植え後すぐに摂食を開始するため、移植同時または移植直後に薬剤散布を行います。薬剤散布後、少なくとも3～4日間は湛水状態（水深3～5cm）を維持し、7日間は落水、かけ流しをしないようにしてください。

他の対策として、スクミリンゴガイは水中でないと摂食できないため、移植後3週間頃まで浅水管理（水深4cm以下）を行うことや取水口にネット等を設置し、水路から本田への本種の流入を防ぐことも重要です。

4 その他

スクミリンゴガイの防除対策については、農林水産省がマニュアル等（アドレス：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/sukumi.html>）を公開していますので、参考にしてください。

表 水稻のスクミリンゴガイに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スクミノン	メタアルデヒド	収穫60日前まで	散布又は無人航空機による散布	2回以内
ジャンボたにくん	メタアルデヒド	収穫60日前まで	散布	2回以内
スクミンバイト3	磷酸第二鉄水和物	発生時	散布、無人航空機による散布	-

使用回数には、同一有効成分を含む剤の使用回数を含む。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。